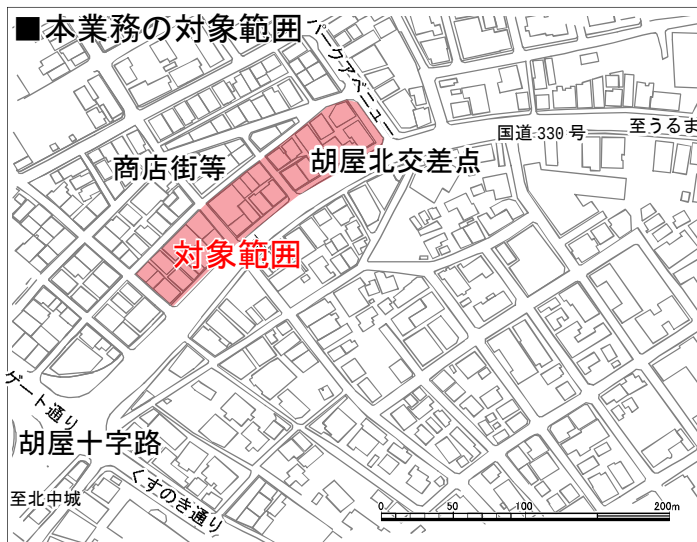


令和5年度 交通拠点整備基本構想検討業務

1. 業務の目的

- 沖縄市では、国や県、関係団体等と連携しながら、望ましい交通結節点の機能や配置における概要案や胡屋地区における交通・回遊を踏まえた交通拠点整備基本構想の検討を行ってきた。
- 本業務では、地域住民及び関係権利者等の合意形成や機運醸成を図るとともに、交通結節点及び周辺エリアの機能配置の検討、連携施策の検討を行い、基本構想の策定を行った。



2. 機運醸成に関する取組

○令和5年度ワークショップの実施

- ・まちづくり関係者の参加



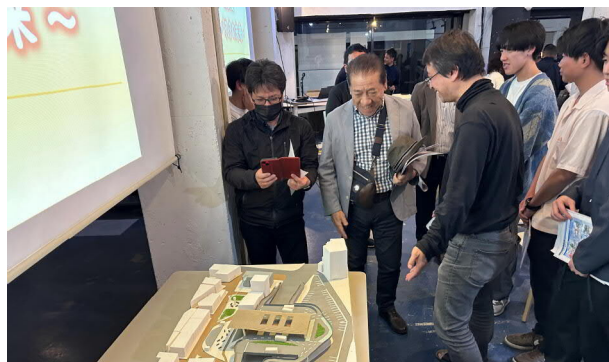
○国際カーニバルでのアンケートの実施

- ・イベントを見に来た家族



○令和5年度 バスターミナル × KOZA 講演会 ～バスタの未来～

- ・講師（羽藤東京大学教授）による講演
- ・東京大学生作成の模型展示・意見交換



3. 交通拠点整備基本構想

○都市間交流イメージ



○将来像・基本方針

将来像: KOZAのみんなで作る、活力に満ちたまち

【方針①】だれもが楽しめる、居心地がいい場づくり

- ・沖縄市の商業の中心である胡屋地区（一番街商店街地区、中央パークアベニュー地区、コザゲート通り地区）において多様な人が訪れ、魅力的な空間を心地よく歩き、つどい、たのびることができる拠点の構築を図ります。

○地域の魅力向上

- ・より長く滞在してもらえる場所の創出
- ・魅力を感じて訪れてもらえる場所の創出
- ・住みたいと思う人が暮らせる場所の創出
- ・交流、憩いの場の創出 ・地域イベントにも活用できる空間の創出
- ・商店街の道路空間を活用した魅力の創出

【方針②】まちとまちとの結びつきを強くする場づくり

- ・本島中南部の一体性を高める社会インフラとして位置づけられている基幹バスシステムと連携し、沖縄本島全体が抱える交通課題への改善や、交流機会の創出につながるよう、交通拠点機能の構築を図ります。

○都市間のアクセス機能の向上

- ・那覇市と沖縄市を結ぶ軸となる基幹バスシステムとの連携
- ・路線バス、観光バス、高速バス、タクシー等との連携
- ・まちづくりと連携した駐車場施策の促進 ・行先が分かりやすい乗降場、上屋、待合所、デジタルサイネージ、インフォメーションセンター等の整備

【方針③】まちなかの結びつきを強くする場づくり

- ・地域内のアクセス性、回遊性を高めるため、様々な交通手段との乗り継ぎ機能の強化を図り、誰もが移動しやすい、環境の構築を図ります。

○地域内の回遊性向上

- ・バス（路線、循環、シャトル）、タクシー、その他交通手段（シェアサイクル、高齢者用乗り物、観光用乗り物 等）との連携
- ・歩いて楽しい（ウォーカブル）空間の創出
- ・バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進

【方針④】KOZAの歴史・文化が感じられる場づくり

- ・南北の商業景観軸と東西の交流景観軸が交わる沖縄市の顔となる地域として、KOZAの歴史や文化を感じることが出来る空間の創出を図ります。

○沖縄市が持つ個性的な空間づくり

- ・国際色豊かな街並みの形成 ・KOZAが感じられる空間の形成
- ・沖縄市の玄関口にふさわしい空間の形成
(国道330号、パークアベニュー、ゲート通り 等)

【方針⑤】より安全で安心なまちづくり

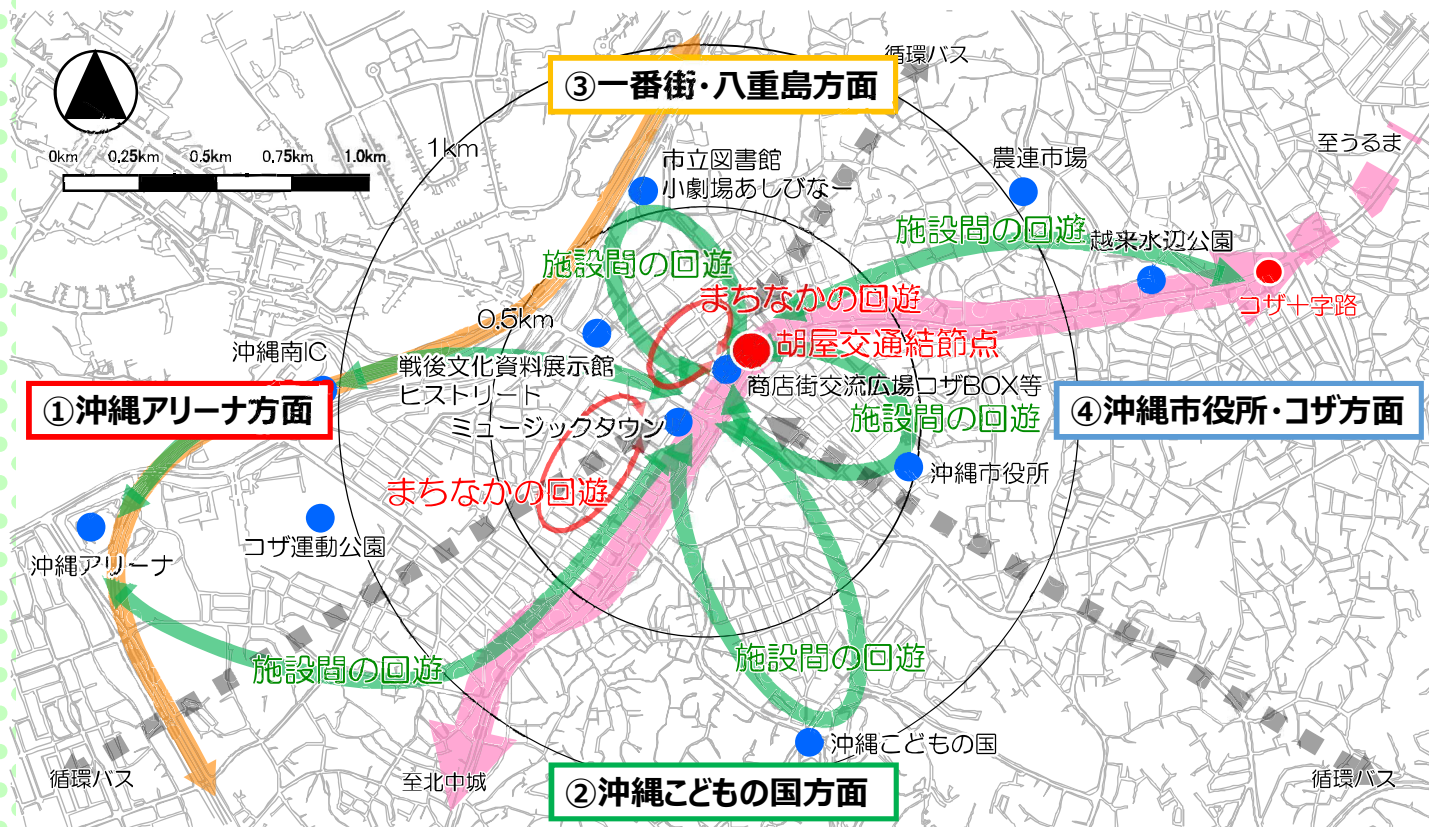
- ・訪れやすい安全で安心な環境づくりを目指します。また、災害時における防災情報などが取得できる環境づくりを目指します。

○防災・防災機能の向上

- ・防災情報（警報、注意報等）や交通機関の運行情報等の情報発信
- ・一時避難場所としての待合所・広場の活用
- ・安全・安心なまちの創出（防犯・交通安全）
- ・沖縄アリーナとの連携 ・Wi-Fi等、災害時・緊急時の通信手段の確保
- ・無電柱化

3. 交通拠点整備基本構想

○胡屋・中央地区バスターミナルを中心とした回遊イメージ



○基本構想

沖縄市中心市街地活性化基本計画 基本方針（第3期 R6.4～R11.3）

- (1) 歴史文化やまちの個性、人々を魅了するエンターテインメントの力をいかしたにぎわいづくり
- (2) 地域・住民・来訪者にとって快適で良好なまちづくり

交通拠点整備基本構想

将来像：KOZAのみんなで作る、活力に満ちたまち

【方針①】誰もが楽しめる、居心地がいい場づくり

【方針②】まちとまちの結びつきを強くする場づくり

【方針③】まちなかの結びつきを強くする場づくり

【方針④】KOZAの歴史・文化が感じられる場づくり

【方針⑤】より安全で安心なまちづくり

① 沖縄アリーナ方面

- ・ スポーツを楽しむ、盛り上げる環境の創出
- ・ まちの個性（商業・文化・歴史）をいかしたにぎわいの創出
- ・ 安心して暮らせる環境の創出

② 沖縄こどもの国方面

- ・ 沖縄こどもの国へ訪れやすい環境、にぎわいの創出
- ・ 安心して暮らせる環境の創出

胡屋バスターミナル機能

- 【基本機能】
- 【交通結節機能】
- 【防災機能】
- 【地域の拠点・賑わい機能】
- 【サービス機能】
- 【景観機能】

③ 一番街・八重島方面

- ・ まちの個性（商業・文化・歴史）をいかしたにぎわいの創出
- ・ 安心して暮らせる環境の創出

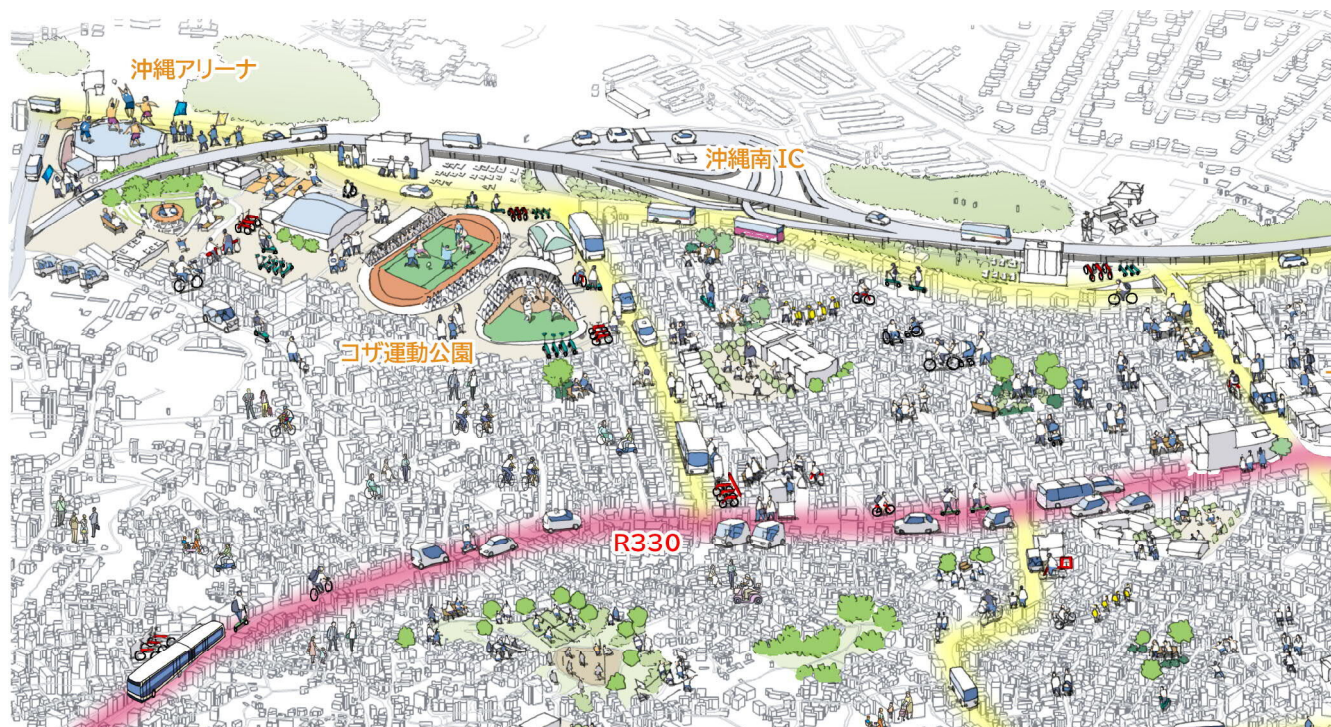
④ 沖縄市役所・コザ方面

- ・ まちの個性（商業・文化・歴史）をいかしたにぎわいの創出
- ・ 安心して暮らせる環境の創出

4. 方面別イメージ(①沖縄アリーナ方面)

①沖縄アリーナ方面

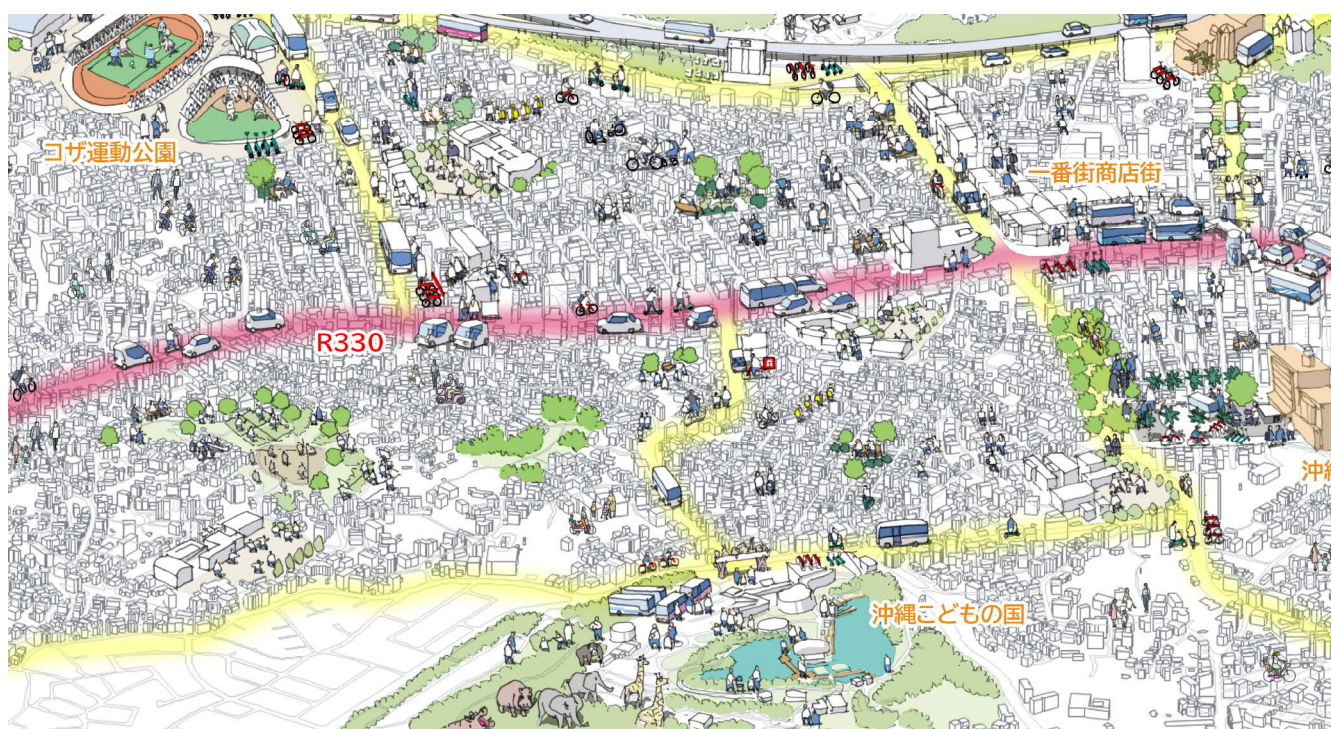
1. スポーツを楽しむ、盛り上げる環境の創出
2. まちの個性（商業・文化・歴史）をいかしたにぎわいの創出
3. 安心して暮らせる環境の創出



4. 方面別イメージ(②沖縄こどもの国方面)

②沖縄こどもの国方面

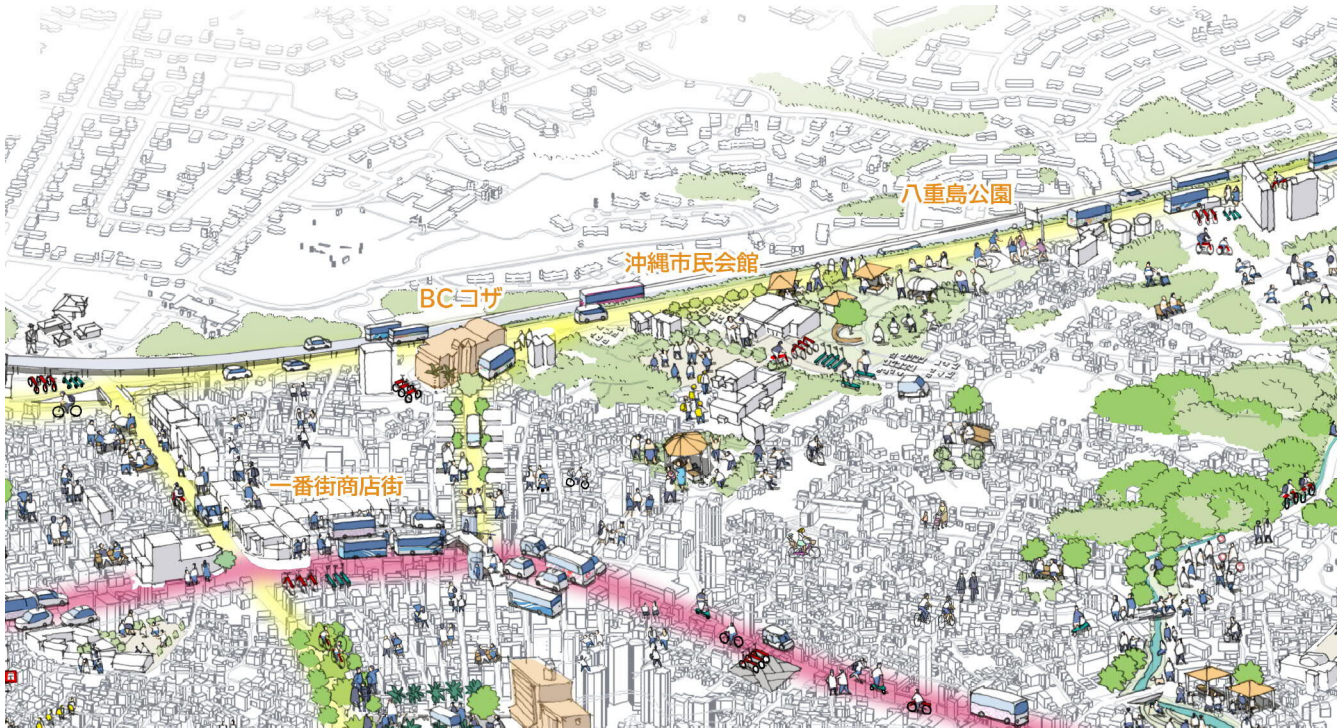
1. 沖縄こどもの国へ訪れやすい環境、にぎわいの創出
2. 安心して暮らせる環境の創出



4. 方面別イメージ(③一番街・八重島方面)

③一番街・八重島方面

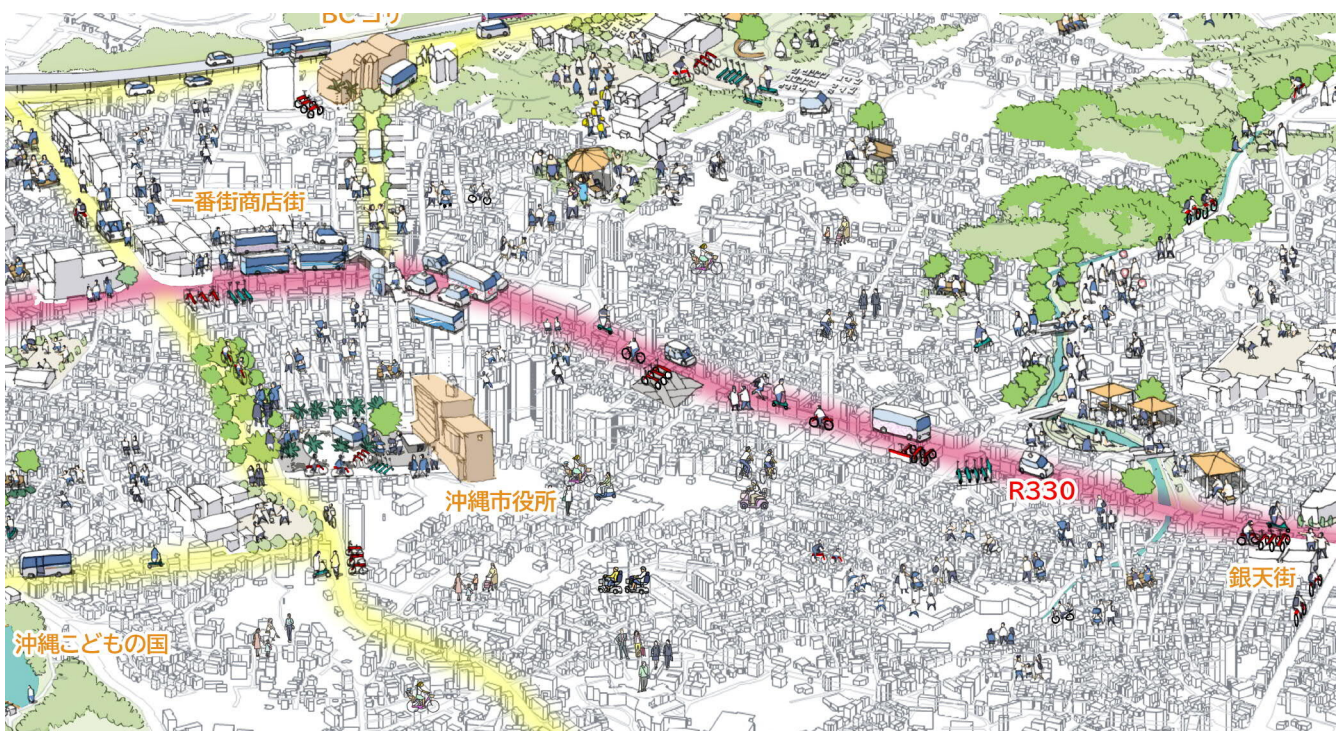
1. まちの個性(商業・文化・歴史)をいかしたにぎわいの創出
2. 安心して暮らせる環境の創出
3. 市の玄関口にふさわしい空間の創出



4. 方面別イメージ(④沖縄市役所・コザ方面)

④沖縄市役所・コザ方面

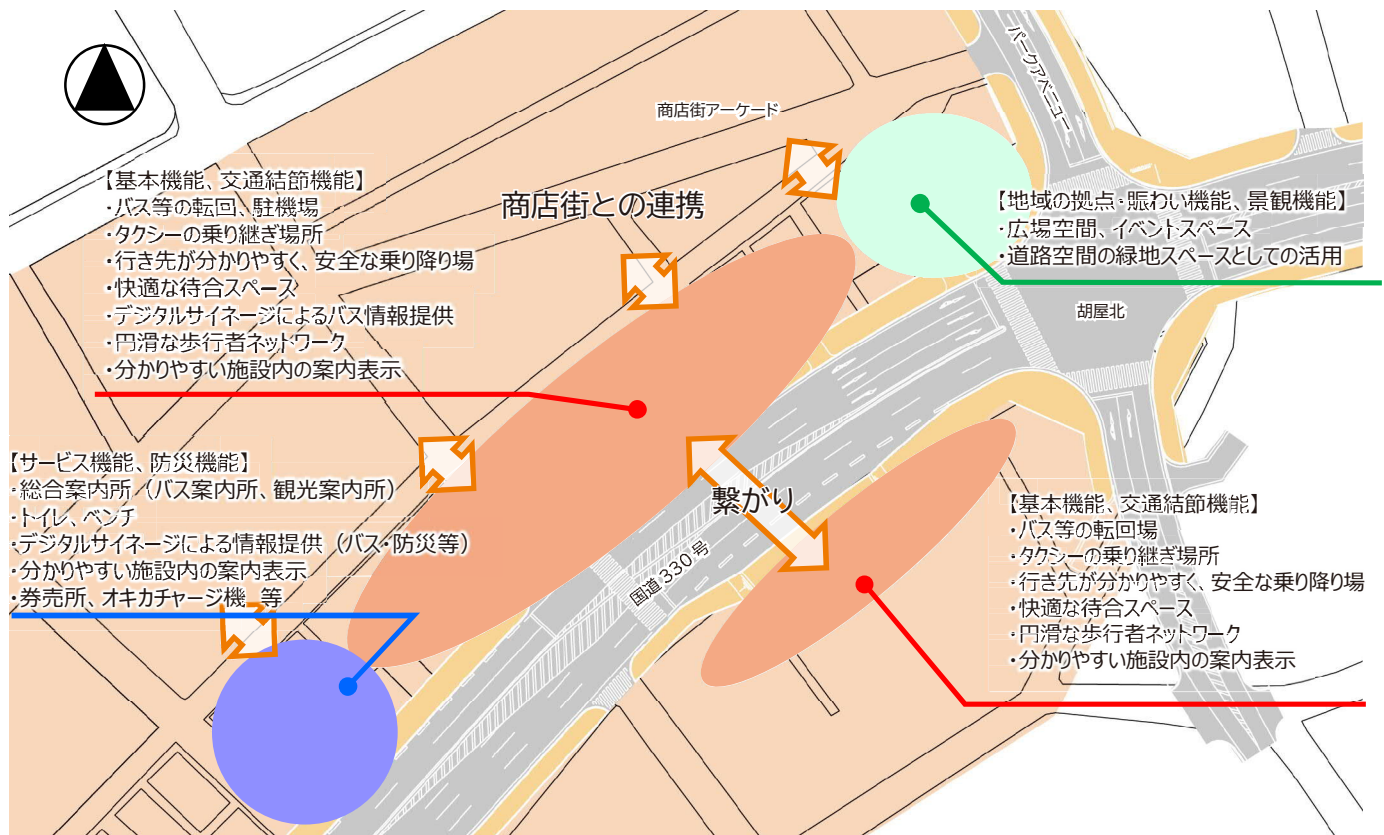
1. まちの個性(商業・文化・歴史)をいかしたにぎわいの創出
2. 安心して暮らせる環境の創出



5. 交通結節点機能配置のイメージ

○胡屋バスターミナルの機能（案）

- 胡屋バスターミナルの機能について、令和3年度に検討した内容を基に、意見交換等を踏まえイメージの更新を行った。



6. 構想検討会の開催

- 本検討では、沖縄市交通拠点整備基本構想検討委員会において、関係者からの意見を踏まえながら検討を行った。
- 構想検討会では、行政（沖縄市、国、県）、教育・研究機関（琉球大学）、市民（自治会長）・商店街（通り会関係者）が集まり、胡屋・中央地区バスターミナルの実現に向けた議論が行われた。



7. 実現に向けた連携施策(案)・推進体制(案)

○連携施策(案)

■ハード施策

【歩きやすい道路空間を創出する取組】

- センター中央通り線相互通行化事業
- ウォーカブルな道路空間づくり
- 交通安全対策 等

【安心して暮らせる場所を創出する取組】

- 土地区画整理事業(中の町地区、安慶田地区)等

【まちなのにぎわいを創出する取組】

- アーバンスポーツパーク整備事業
- 沖縄こどもの国整備事業
- 優良建築物等整備制度導入検討事業(建物整備、駐車場等)
- 広場空間(交通広場、緑地スペース)の整備 等

■ソフト施策

【利用しやすい公共交通、多様な移動手段に関する取組】

- 沖縄市循環バス事業(拠点を胡屋・中央地区バスターミナルへ移動)
- 観光バス・高速バスとの連携
- 施設間の回遊性向上(シャトルバス、循環バス、自転車等) 等

【まちなのにぎわいを創出する取組】

- まちなか交流拠点の創出
- ウォーカブルエリアの設定・まちなかの回遊(歩いて楽しい空間づくり)
- 魅力ある商店街に向けた、商店街組織力等強化事業 等

○推進体制(案)

まちづくりの 主役 市民・商店街・企業等

- ・コザのコンテンツを積極的に活用し、まちを盛り上げる
- ・まちづくり会社への参加、出資等立ち上げ・育成・支援に関わる
- ・コザのまちづくりの主役となる次世代を育て、覚悟を引き継いでいく
- ・国道拡幅、バスタ等の公共事業と連携したまちづくりに取り組む
- ・コザに新しいコンテンツを生み出し、働く人・訪れる人を呼び込む
- ・地域と連携・役割分担を図りながら、まちづくりに主体的に取り組む

胡屋・中央地区
バスターミナル整備
に向けたまちづくりの
推進体制

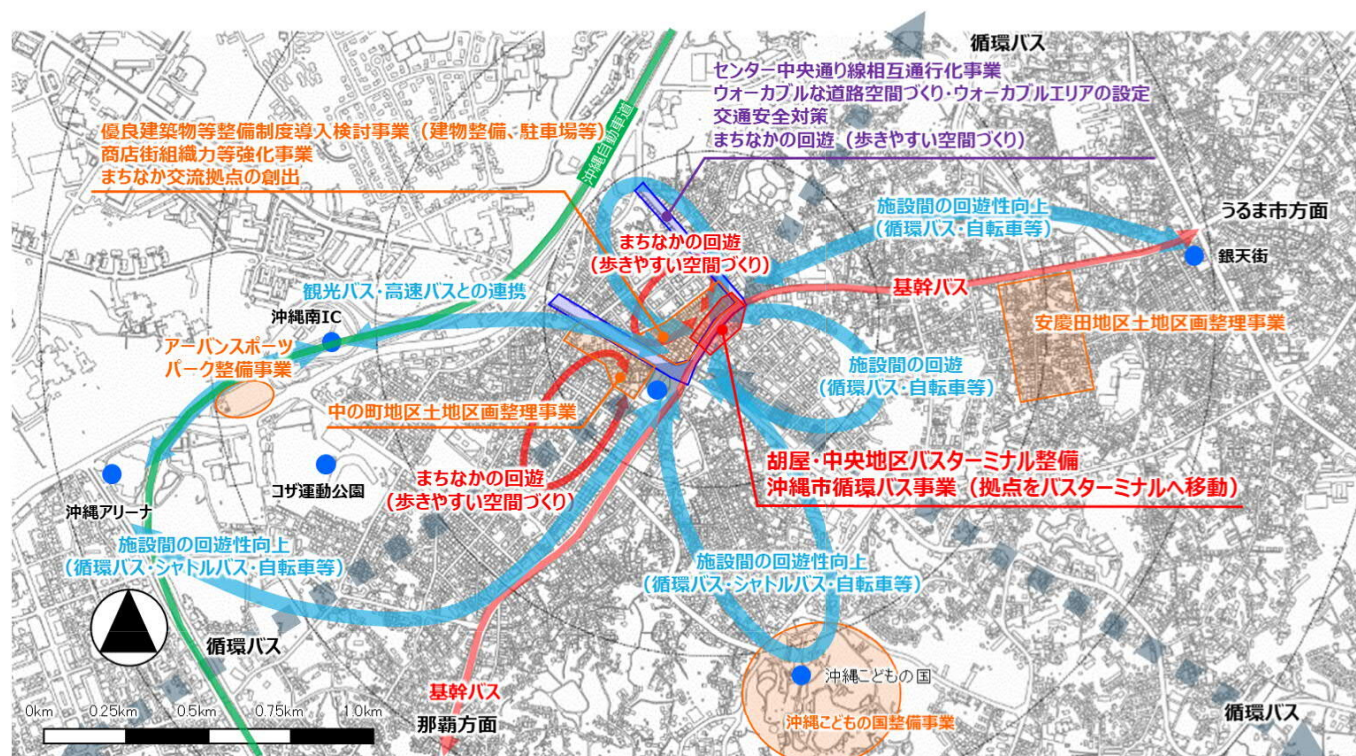
まちづくりの サポート役 行政(沖縄市、国、県)

- ・行政にできることを明確にし、主役・先導役のまちづくり活動を支援する
- ・基本構想の実現に向け、様々な事業に取り組む
- ・地域の機運醸成、合意形成に向けて取り組む

まちづくりの サポート役 教育・研究機関(大学等)

- ・様々な知見を踏まえ、まちづくりを支援する
- ・俯瞰的、長期的な観点からまちづくりを支援する
- ・まちなのにぎわい創出に関する研究等に取り組む

○連携施策(案)のイメージ



8. ヒアリング意見

- 本業務では、今後のプレサウンディングに向け、沖縄県内・市内で事業を展開する企業を対象に意見交換を実施した。

○ヒアリング意見（主な意見）

- ・ 沖縄アリーナやホテルと**商店街との繋がり**が重要
- ・ 広域の視点で、**那覇、沖縄、名護で連携**していくことが重要
- ・ バスターミナルを整備するだけでなく、**まち側に来訪目的**を作っていくことが重要
- ・ 市には多くの開発やまちづくりが進められているため、整備スケジュールを連携、バスタ整備を**どういうスケジュールで進めるか整理**が必要
- ・ 都市部に高齢者が住み続けられるように、**バスタと病院（看護・介護分野）が連携した機能や仕組み**も重要
- ・ プレサウンディングに向けては**想定利用者数、来訪者数、商圈、整備スケジュール等の条件提示**が必要

9. 今後に向けて

①まちづくりに関する検討体制の構築

【課題】

- ・ まちづくりに関する検討については引き続き市が主体となって進めていくことが求められる。
- ・ 胡屋・中央地区バスタの整備に向けて、整備までの間で実施可能な取組を進めていくことが求められる。

【今後に向けた取組】

- ・ 講演会等で地域の文化・歴史を踏まえたデザインの重要性について助言を受けたことを踏まえ、関係者と連携し取組を実施する。
- ・ 令和 5 年度の委員会メンバーを中心とし、取組に応じたワーキンググループの構築や、着実に進めていくための体制を構築する。

②交通拠点まちづくりの機運醸成

【課題】

- ・ 講演会への参加者については女性、子どもの参加率が低い。

【今後に向けた取組】

- ・ 令和 6 年度以降も、引き続き、結節点整備の実現に向けては地域や商店街、まちづくり関係者の機運醸成等の取組を継続し、交通拠点まちづくりの機運を高めつつ、女性、子どもの参画を促していく。

③交通拠点整備基本計画の策定

【課題】

- ・ 構想を実現化する具体的な取り組みが求められる。

【今後に向けた取組】

- ・ 交通拠点整備基本計画の策定による基本計画で位置づけた施策の優先順位、スケジュール、補助活用の可能性、役割分担等を行っていく。

④ウォーカブルエリアの実現に向けた検討

【課題】

- ・ 歩きやすい・歩いて楽しい道路空間の創出が必要となる。

【今後に向けた取組】

- ・ 交通拠点整備基本計画の策定による基本計画で位置づけた施策の優先順位、スケジュール、補助活用の可能性、役割分担等を行っていく。